

連載 第44回

ベンズブロマロン投与により 尿酸値降下とともにインスリン抵抗性が 改善した心不全の1例

荻野 和秀

鳥取大学医学部附属病院検査部 准教授

はじめに

高尿酸血症は高血圧をはじめとするさまざまな生活習慣病と併存し、糖尿病や耐糖能異常も高尿酸血症と関連性が深いことが報告されている¹⁾。高尿酸血症にはしばしば耐糖能異常が合併し、さらに高尿酸血症が糖尿病発症の予測因子であるとメタアナリシスにおいても報告されている²⁾³⁾。一方、高尿酸血症の治療を行うとインスリン抵抗性が改善するという動物実験での報告はあるが⁴⁾⁵⁾、尿酸降下薬で糖尿病やインスリン抵抗性が改善したという臨床研究はほとんどない。

今回提示するのは、高尿酸血症を合併した心不全患者に対してベンズブロマロンを投与することによって、インスリン抵抗性が改善した症例である。

症 例

患者：50歳，男性

現病歴：45歳より拡張型心筋症，心房細動，慢性心不全にて，当科外来通院中であつた。慢性心不全に対してアンジオテンシン受容体遮断薬， β -受容体遮断薬，利尿薬の内服を行い，経過良好であつた。しかしながら，体重増加とともに血清尿酸値が徐々に高値となり，食事指導・運動指導などにもかかわらず減量でき

ず，血清尿酸値は常時8.0mg/dLを超えるようになった。

既往歴：48歳 良性発作性頭位めまい(治癒)

生活歴：喫煙歴；45歳まで30本/日 以後禁煙，飲酒歴；なし

内服薬：カンデサルタン 4 mg/日，カルベジロール 20mg/日，スピロノラクトン25mg/日，トラセミド 4 mg/日，ワルファリン 4 mg/日

家族歴：特記事項なし

身体所見：身長172cm，体重97.0kg，BMI 32.8kg/m²，
血圧102/82mmHg(左右差なし)，脈拍90回/分(不整)
頭頸部；結膜異常所見なし，頸静脈怒張なし

胸部・腹部・四肢；異常所見なし

血液・尿検査所見(空腹時)：血液一般検査；白血球数
6,100/ μ L，赤血球数 5.37×10^6 / μ L，ヘモグロビン
15.3g/dL，ヘマトクリット46.7%，血小板数 261×10^3 / μ L
血液生化学検査；ナトリウム140mmol/L，カリウム
4.0mmol/L，クロール103mmol/L，尿素窒素24mg/
dL，クレアチニン1.09mg/dL，尿酸8.5mg/dL，総蛋白
7.2g/dL，総ビリルビン1.1mg/dL，AST 24U/L，ALT
50U/L，ALP 177U/L， γ -GTP 83U/L，LDH 162U/L，
総コレステロール249mg/dL，中性脂肪209mg/dL，
HDL-コレステロール32mg/dL，インスリン16.5 μ U/
mL，グルコース118mg/dL，HbA1c 6.0%，PT-INR